人物紹介

川に親しむ

藤原　良一さん

「西伯町林業研究会・樹言塾」事務局長
藤原　良一さん（西伯郡西伯町）

日野川・法勝寺川周辺の西伯・会見・岸本の各町に在住の農業・林業等にたずさわる約50名が参加する西伯町林業研究会「樹言塾」。その事務局長を務める藤原さんは、「中山間地域の林業にこだわる者の集まり」と会のことを説明する。その名前は**「水も空気も森から生まれている。森の大切さを木々が訴えている」**という藤原さんの思いからのネーミング（wood message school）だ。

平成4年に西伯町の「ふるさと創生事業」交付金を受けて発足。それ以来、10年以上にわたって県外先進地への視察見学会や地域で「塾」の開催などの事業を展開している。西伯町が新しい時代への取り組みとして展開する「百年の森構想」や「森の学校」にも参画しており、メンバーはその中で木工細工や林業体験学習などのインストラクターを務めている。

「会の認知度はまだまだ。もっと活動をPRしないと」と語る藤原さん。「水辺環境の問題」「川上・川下の問題」「環境浄化の問題」など活動のテーマは多彩だ。藤原さんにとっては中でも「地域発展の偏重」が最大の関心事。「これまでは人口集中地域に公共事業が集中していた。例えば上下水道の整備にしても地域差は依然として大きい。生活関連基盤の整備なくしては地域の発展は無い。中山間地が過疎化していった原因の一つ」という。

先進町の林業施策調査

「戦後50年が経ち、産業の発展に伴って木々が伐採され、それを補うために植林事業もされてきたが、森として機能をしていない現状がある。みんなに『私たち一人ひとりが、森を守るために何か活動をしなければ』という共通の思いが出来れば、森は生きてくると思います」と会活動の意義を唱える。「私たちは森の中で生まれ育って、そしてやがて土にかえっていく。私たちは森から水や空気をもらい生きている。これに恩返しをしていきたい」というのが心からの願いだ。

スタートから10年が経ち「一つの活動の区切りとして、活動の方向性を見出したい」という藤原さん。「地域から、もっと地球的な規模で、森と水とのかかわりができる事業展開をしていきたい」と夢を語る。そして一方、「地道で良いから長続きするような取り組みをしていきたい。町民ひとりひとりの活動にまで結び付けていけたら。幼稚園や保育園、小中学校の子供たちにも森への思いが伝わって行けたらうれしい」と次世代への広がりにも思いをはせる。

森林施業の調査

西伯林業研究会
樹　言　塾
〒683-0351　西伯郡西伯町法勝寺
TEL（0859）66-2102（西部森林組合内）